人にやさしい旅客案内システム

高木大史*
重枝哲也*

Passenger-Friendly Information Systems

Daiji Takagi, Tetsuya Shigeeda

要　旨

最近の鉄道はバリアフリー法の施行に伴って障がいを持たれる方や高齢の方々など移動制約者に対する移動の利便性や安全の確保が義務付けられ，エレベーター，エスカレーター，ホーム柵の設置が進むとともに旅客にとって利用しやすい旅客案内システムが開発されている。

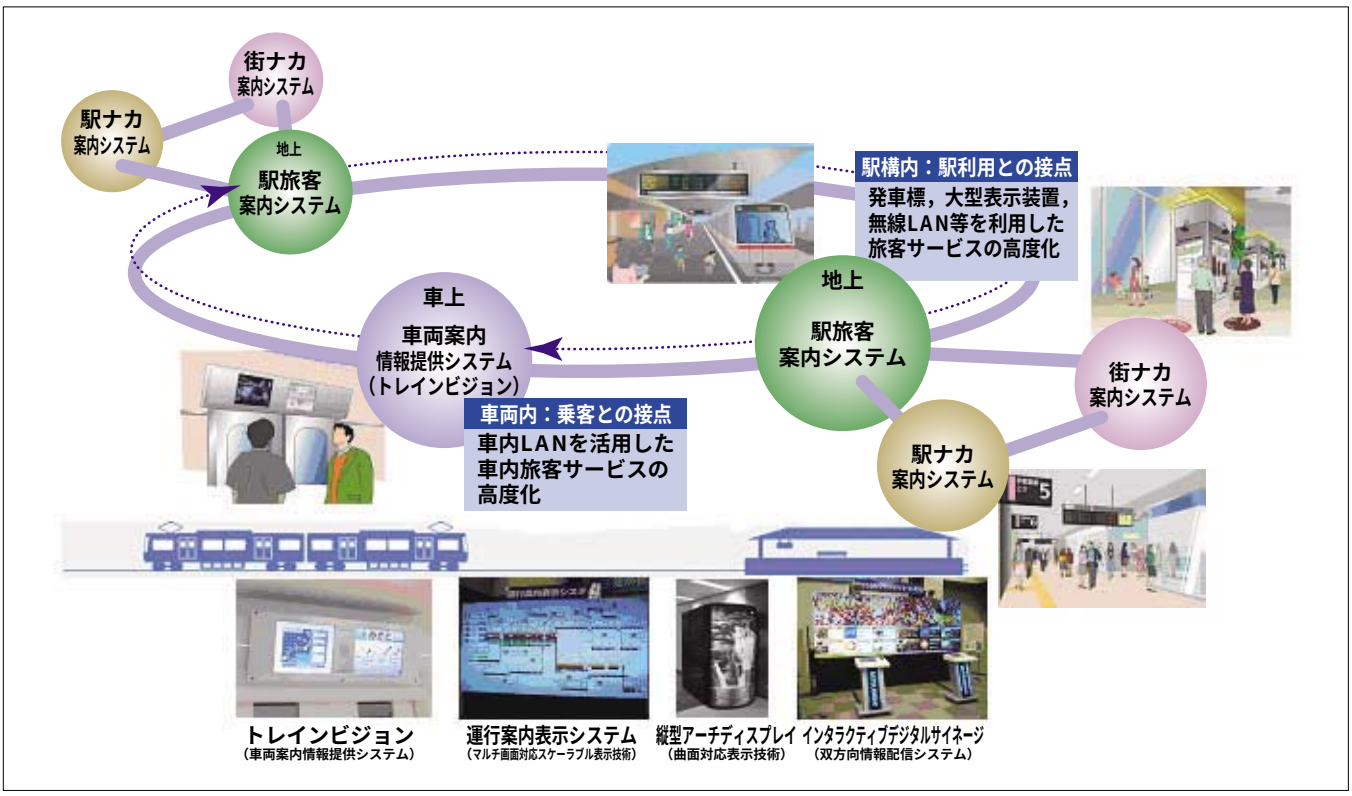
駅はこれまでの単なる旅客の乗降又は乗り換え場所としての存在から，鉄道の顔として旅客への多種多様な情報サービスや安全確保が求められている。そのため，旅客案内システムの機能は複雑化かつ多様化の方向にあり，発車標，大型表示装置を始めとする各種映像表示装置，インタラクティブな情報端末等を用途に応じて使い分けることによって利用者ニーズに対応した付加価値の高い情報を提供することが求められている。

さらに列車内においても駅と同様に移動中に必要な情報をリアルタイムに提供することが求められている。

本稿では最近の駅旅客案内システムの事例として大阪市交通局に納入した大型表示装置を紹介する。この表示装置の表示デザインは情報のユニバーサルデザインをコンセプトに設計した。また，旅客への情報提供サービスの拡充として，車内の旅客向けの案内情報提供システム（トレインビジョン）について述べる。

そして，駅構内の旅客案内システムと車両内のトレインビジョンの情報を融合させた駅ナカ情報配信システムと乗務員・駅務員がきめ細かい案内サービスを旅客へ提供することを支援する在線情報提供システムについて述べる。

最後に多様化・高度化する情報提供サービスへの要求にこたえるための三菱電機旅客案内システムの構築コンセプトと旅客サービスの向上への今後の取り組みについて述べる。



地上・車上の融合と情報のシームレス化

トレインビジョンと駅旅客案内システムの情報を共有化し，広告コンテツ浸透の深度化と旅客案内サービスの向上を目指す。
駅から街へ情報を配信し，これまでの通過するポイントであった駅を情報ステーションとして位置付け，駅とその街の利用者への情報提供サービスを行う夢のある駅・街づくりを実現する。

*伊丹製作所